

訪日客需要で9割超の稼働率が続く大阪のホテルが、客室の増設など改装投資に踏み切る。約8割の東京都内より高い稼働率で収益力を高めている。一方で、観光客や出張するビジネスマンには予約のとりにくい状況が当面続きそうだ。

大阪新阪急ホテルは約4億円を投じ、2016年11月末までに40室を設ける。競争が厳しい婚礼事業を縮小し、ブライダルサロンや小宴会場を客室に変える。新設の40室はすべて2人以上が泊まれる部屋にする。

大阪のホテル 相次ぎ改装

昨年の市内、稼働率9割超

訪日客対応、客室を増設

リーガロイヤルホテルは、テलगランヴィア大阪で倉庫などを改装し、今春までに客室を984室と1年前より12室増やす。ベッドの追加などで収容人数を増やし、客室単価も上げる。

日本経済新聞社がまとめた大阪市内の主要12ホテルの2015年の平均客室稼働率は90・4%と比較可能な09年以降で初めて90%を超えた。14年より1・9ポイント

高く、4年連続の上昇だ。JR大阪駅に直結するホテルからの客は2・2倍だった。

（USJ）などがある地区ではさらに高いという。帝国ホテル大阪の15年の稼働率は86%と14年比4・5ポイント上昇。外国人客の比率は44%と10ポイント高まった。中国からの客が5割増、韓国